

嶋田智明・大峯三郎(編)

「実践 MOOK・理学療法プラクティス
これだけは知っておきたい腰痛の病態と
その理学療法アプローチ」

百瀬公人

信州大学医学部保健学科理学療法学専攻

臨床実習中の学生が混乱した場面について聞く中で教育現場と臨床現場の違いを感じるがよくあります。日本の多くの教育施設では、解剖学や生理学などの基礎医学を学んだ後に、運動学や理学療法評価学などの理学療法の基礎を学びます。それと前後して臨床医学を学び、最後に理学療法の治療を学びます。このようにして基礎から臨床までをすべて学んでから、学生は臨床実習へと向かいます。しかし、多くの学生は学校で学んだ知識の相互関係が把握できず、臨床の具体的問題の壁にぶつかる経験をします。

このような、学生がつまづきやすい臨床の具体的問題を中心に教育を行う方法があります。マクマスター大学での problem-based learning をご存知の方は多いでしょう。問題に基づいた学習を、小グループ学習を通して行い、グループごとに方向づけをするためのチューターとともに学生が主体的に学習するという学習方法です。このような教育方法も有効ですが、カリキュラム全体の編成を考えなければならず、現実的には困難であると思っている教育関係者は多いと思います。

本書は、新人の理学療法士を対象として構成された、まさに腰痛についての problem-based learning が行える書であるといえます。新人の理学療法士は腰痛の治

療に行き詰まった時にこの本を開くと、本の中に存在している多くのチューターの援助を借りて問題を解決することができます。

本の目次を見ると、腰痛発生のメカニズム、腰痛患者の病歴を知るための3つのステップ、痛みを客観的に捉える、理学療法プログラムを立てる、患者との接し方、機能障害に対する理学療法介入のポイント、活動制限・参加制約に対する理学療法介入のポイント、そして、わたしはこうしている、などがあります。さらに、ミニレクチャーとしてそれぞれの項目で臨床上疑問に思うことなどに対するアドバイスや考え方を11項目も盛り込んであります。この目次を見ると臨床で疑問に思い、知識を手に入れたと思う項目がバランス良く配置されていることがわかり、編者の思いを感じることができます。また、それぞれの分野で第一線の先生方がわかりやすく噛み砕くように書いています。

臨床経験の豊富な先生方がこの本を手にとられたら、「この本がもっと早く存在していたら、新人のころに腰痛患者の治療に長く悩むことはなかった」と思うことでしょう。新人の理学療法士の方は、この本のエッセンスがどれほど素晴らしい内容なのか、このことが理解できる頃には腰痛患者を治療することが楽しくなっていると思います。この本を手にとることにより、基礎から臨床まで、腰痛に関する知識と技術を実践的に駆使できるようになると思います。

●B5判 192頁(2色刷)

定価 4,725 円(本体 4,500 円+税 5%)

2008 年 文光堂・刊